



群馬県立農林大学校

たかさきしみさとまちにしあきや
群馬県高崎市箕郷町西明屋

修学期間：2年間 定員：1学年20名

群馬県立農林大学校は、群馬県農林業の振興や活力ある地域づくりを実現し、新しい時代に即応した農山村の健全な発展を図るため、優れた農林業経営者及び農林業関連従事者等を育成することを目的に昭和58年に開校した2年生の専修学校で、「理論と実践」「変化への対応力」「自律と自治」を重点に教育に取り組んでいます。

林業を学ぶコースは、農林業ビジネス学科森林コースです。現在、1年生19名(男14・女5)と2年生10名(男9・女1)の計29名が林業技術者を目指して講義や実習に励んでいます。

林業の現場は様々な危険と隣り合わせであり、安全を第一に考え、林業現場の現状や変化に対応できる林業の担い手を育成するため授業を行っています。

最近の傾向として、林業現場から、より実践力を強化した教育を求められ、平成29年の教育改革で実践学習を5割から約6割に増やしました。

また、AIの発達により今後の林業現場は大きく変化すると予想され、ICTやデジタル技術の活用は必要不可欠となります。本校でも講義や実習にGPSを用いた地図データ更新やGISソフトを用いたデータ解析、ドローンなどにより地理情報システムの活用を学んでいます。



ドローン操作研修



GPSの説明



位置データを取るためにGPSとコンパスを活用し測量実習



GISソフトを用いたデータ解析

人材育成の現場から



長野県林業大学校

きそぐんきそまちしんかい
長野県木曾郡木曾町新開

修学期間：2年間 定員：1学年20名

人口減少社会の到来による労働力の不足が課題となる中で、広大な森林を将来にわたり適切に管理・整備していくためにはICT等の先進技術を活用した効率的な森林調査・管理手法の導入・推進が不可欠であり、こうした知識・技術を身に付けた次代の担い手に対する現場の期待はますます高まっています。

長野県林業大学校は、昭和54年4月に開校し平成30年度で創立40周年を迎えた歴史ある教育機関です。長野県においては、産学官が連携して革新的な林業の実現を目指す、スマート精密林業「長野モデル」の開発に取り組んでおり、本校では、このプロジェクトの中心として活動している信州大学の教授を講師に招き、航空機や人工衛星を用いた地表物の観測(リモートセンシング)や、GPSに代表される衛星による位置確認や測量等のシステム、地理情報システム(GIS)等の先進技術に関する授業を学生に提供しています。

また、現場実習では、実際の現場での活用を念頭に、学生が自らドローンやスマートフォンアプリを操作して樹木の立地や森林資源情報の調査を行い、調査データの解析、森林GISを活用した森林整備計画の作成などに取り組んでいます。

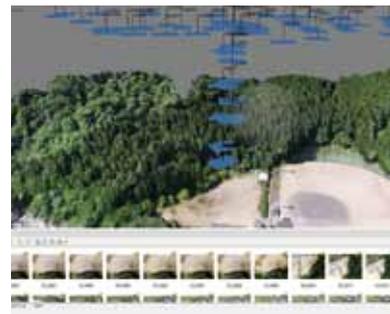
本校では、今後も最新の知識・技術の効率的な提供に取り組むとともに、本校を卒業した学生が、地域の現場において、修得したICT技術等を活用しながら新たな森林や林業・木材産業の新しい姿を描いていくことを期待しています。



ドローンを用いた森林調査実習



学生によるドローン操作



ドローンにより撮影した演習林解析



スマートフォンのアプリを利用した森林調査実習



計測アプリの画面



PCを用いた計測データ分析の様子